

WINDOW



ミクロネシア連邦大統領府にて大統領との記念撮影



ボンベイ国際空港にて高知県訪問団を出迎えるミクロネシアの子供たち



チューク州ウエノのビーチ



チューク州デュブロン島にある森小弁氏の記念石碑前にて

2014
Spring
No.60

特集

高知県ミクロネシア連邦友好記念訪問団の派遣 高知・ミクロネシア友好交流協会の紹介

- 国際ふれあい広場2013を開催しました
- 韓国全羅南道との観光・文化交流協定締結10周年記念事業—全羅南道訪問団来高—
- INAP2013高知会議開催
- A Letter From Abroad
山内 桂 (独立行政法人国際協力機構(JICA)四国支部高知県国際協力推進員)
- INFORMATION BOARD
高知県国際交流員退任あいさつ
土佐弁ミュージカル開催のご案内

国際ふれあい 広場2013を 開催しました



10月6日の「国際協力の日」(*)を記念し、今年も県民の皆様に国際協力や国際交流についてより身近に感じていただけるためのイベント「国際ふれあい広場2013」をJICA四国との共催で開催しました。イベントの様子を写真で紹介したいと思います。

- 開催日：2013年10月20日(日)
- 会 場：ひろめ市場よさこい広場
- 出展団体：11団体(順不同)
- ①在日本大韓民国民団高知県地方本部 ②高知県青年海外協力隊OB会 ③コデアルテコを応援する会 ④特定非営利活動法人Brain ⑤高知SGG善意通訳クラブ ⑥高知大学 国際茶屋 ⑦奥村多喜衛協会 ⑧高知インドネシア友好の会 ⑨日中友好中国帰国者の会 ⑩JICA四国(独立行政法人国際協力機構四国支部) ⑪高知県国際交流協会
- 来場者数(推計)：6,000人



▲高知県友好姉妹都市パネル写真展



▲モンゴル出身の高知大学留学生による馬頭琴の演奏



▲ARU Belly(特別出演)によるベリーダンス



▲インドネシアンダンス



▲出展団体の出展の様子



▲出展団体の出展の様子



▲中国舞踊「秧歌舞」



▲ジミー(特別出演)によるギター演奏



▲青年海外協力隊OB・OGによる体験談トーク

※「国際協力の日」とは？

日本の政府開発援助(ODA)は、1954年10月6日にコロンボ・プランに参加したことから始まりました。このコロンボ・プランとは、1950年に提唱された、アジアや太平洋地域の国々の経済や社会の発展を支援する協力機構のことで、第二次世界大戦後もっとも早く組織された、開発途上国のための国際機関です。日本もその正式加盟国の一員として、1955年から研修員の受け入れや専門家の派遣といった技術協力を開始しています。

日本政府はコロンボ・プランに参加を決めた10月6日を「国際協力の日」と定め、毎年その前後には、全国各地で国際協力に関係するさまざまなイベントが行われています。(出典：JICAホームページ)

韓国全羅南道との観光・文化交流 協定締結10周年記念事業

—全羅南道訪問団来高—

高知県国際交流課 主査 岡崎 昭子

第二次世界大戦前後の困難な時代に、韓国で3千人の孤児を育て、両国の友好交流の礎を築いた田内千鶴子さんは高知県の出身です。

彼女と夫の尹致浩^{ユンチホ}さんが運営した孤児院「木浦共生園」が所在する全羅南道と本県は、そのご縁から交流を重ね、2003年に観光・文化交流協定を締結しました。その10周年を迎えた昨年は、両県道で記念事業を実施しており、高知県から全羅南道への訪問



ものづくり総合技術展・アジアフェア開会式

については、本誌第59号に寄稿させていただきました。

一方、昨年11月には、全羅南道から権五俸^{クォン・オボン}経済副知事を団長

とした11名の訪問団が、友好交流及び経済交流の更なる促進を図るために来高しました。

20日に本県へ到着した一行は、まず、高知市内のホテルで開催された記念レセプションに出席しました。会場には、日韓の友好交流に尽力している関係者が多数集まり、訪問団の皆様を高知家の一員として心から歓迎しました。

尾崎知事と権五俸副知事は、それぞれの挨拶の中で、これまでの交流の意義を振り返り、相互発展に向け全力で取り組んでいく意気込みを語りました。

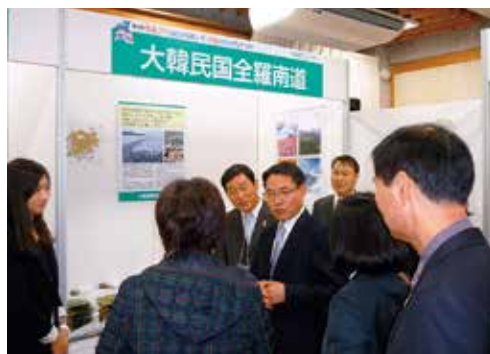


観光・文化交流協定締結10周年記念レセプション

また、皿鉢料理やよさこい踊りが高知らしい雰囲気を盛り上げる中、参加者は時間を惜しみながら言葉や握手を交わし、両県道、そして日韓の明るい未来を展望しました。

21日は、高知港を含む7港が加盟している友好提携港国際ネットワーク(略称INAP)の国際会議が開催され、高知ちばさんセンターでは、第2回ものづくり総合技術展・INAP2013アジアフェアも幕を開けました。権五俸副知事は、その開会式で祝辞を述べた後、106事業者のブースが立ち並ぶ会場で、各社の説明に熱心に耳を傾けていました。また全羅南道の観光ブースでは、これから3日間、PR活動に従事するスタッフを激励しました。

その後、訪問団の一行は、田内千鶴子さんの記念碑に献花し、翌日にかけて県内企業等を視察しました。津野町のアンテナショップ満天の星、株式会社けんかま、有限会社池一菜果園では、地元の農林水産業を活かした特色あるビジネスを、クラインガルテン四万十では、移住促進の取り組み、そ



全羅南道観光ブース

して西島園芸団地では商品価値の高い果物の栽培技術について説明を受けました。副知事は、各訪問先を大変興味深く視察し、自然豊かな地方自治体という点において共通している本県から、全羅南道の振興に繋がるヒントを得ようと努めている様子でした。

関係者の皆様のおかげで、このたびの訪問が収穫の多いものとなり、両県道の絆をより強くすることができました。高知県では、今後とも、地方における国際交流を大切に育てていくよう努めてまいりますので、引き続き、ご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

高知県ミクロネシア連邦友好記念訪問団の派遣

高知県国際交流課 主幹 與名 良

2013年10月19日から23日までの4泊5日の日程で、高知県・高知市など行政と民間友好交流団体の関係者を中心とする高知県ミクロネシア連邦友好記念訪問団や観光客など、総勢約90名の高知県民が、ミクロネシア連邦を訪問しました。

ミクロネシア連邦は、日本から赤道に向かいサイパンやグアム諸島をさらに南下した、西太平洋の赤道の北側に位置する国です。

このミクロネシア連邦には、高知市出身で日本人として初めてミクロネシアに定住した森小弁氏の子孫が数多く在住しており、「モリファミリー」と呼ばれるこれらの方々と、本県の親族やロータリークラブ関係者との間で、長年交流が継続されてきました。

森小弁氏のひ孫にあたる現ミクロネシア連邦大統領、エマニュエル・マニー・モリ大統領は、幾度か本県を訪れたことがあり、2012年6月のポンペイ空港拡張工事完成記念式典には全国の自治体で唯一、高知県をお招きいただくなど、官民ともにミクロネシアとの友好関係を築いてきました。

今回のミクロネシア連邦訪問は、このような経緯を経て、2013年6月に民間友好交流団体として設立された「高知・ミクロネシア友好交流協会」の記念事業の一環として、高知とポンペイ州とを結ぶ初のチャーター便に搭乗し、現地のモリファミリーとの交流や政府、友好団体等との官民を挙げた交流を通じて、両地域の絆の確認、発展を図ろうとするものでした。これは、モリ大統領をはじめとする多くのミクロネシアの方々、高知に寄せる思いや願いに応えるものでもありました。このため、岩城高知県副知事や森田県議会議長をはじめ多数の県議会議員、そして中嶋高知市副市長など、錚々たるメンバーがミクロネシアを訪問したことは、両地域の絆をさらに強める大変意義深いことであったと思います。

現地では、初日のポンペイ州政府主催の歓迎式典に始まり、ミクロネシア連邦大統領との懇談、日本大使館主催のジャパンフェスティバルへの参加、ポンペイ州在住のモリファミリーやミクロネシア日本友好協会など、たくさんの方々と交流を行いました。その後、森小弁氏の生活拠点であったチューク州へ渡り、チューク州政府関係者との懇談、日系人協会や女性団体との交流、さらに、森小弁氏の記念石碑やお墓のお参りでは、一人ひとり献花し、南洋に雄飛した先人を偲びました。

訪問最終日の夜には、チューク州のモリファミリーの邸宅での夕食会にお招きいただき、我々の訪問に合わせて州内外から集結した総勢300人を超すモリファミリーと交流し、森小弁氏を祖とするファミリーの繁栄ぶりを目の当たりにしました。民間参加者が披露したハーモニカの演奏に合わせて子供たちが歌を歌ったり、あちらこちらで心温まる交流場面があり、絆の強さ、大切さをあらためて感じました。

今後の両地域の交流については、今回の訪問で見聞きした同国の現状(インフラや経済の面で発展途上にあることなど)を踏まえながら、両地域の絆を大切に、友好交流及び国際協力などの可能性を追求していきたいと考えています。



森小弁氏のお墓への献花の様子



チューク州のモリファミリー邸宅での歓迎夕食会

訪問日程

10月19日(土)

【日本からミクロネシア連邦へ】

- ・高知龍馬空港2F出発ロビー前にて出発式
- ・高知龍馬空港(チャーター便)～ポンペイ国際空港

【キューピッドバー&グリル(ポンペイ州コロニア)】

- ・ポンペイ州政府主催歓迎式典・夕食会

10月20日(日)

【ミクロネシア連邦大統領府(ポンペイ州パリキール)】

- ・ミクロネシア連邦大統領表敬訪問

【ミクロネシア短期大学ポンペイキャンパス体育館(ポンペイ州コロニア)】

- ・日本国大使館主催ジャパン・フェスティバル

【ミクロネシア短期大学体育館(ポンペイ州コロニア)】

- ・モリファミリー&ミクロネシア日本友好協会主催夕食会

【ポンペイ州からチューク州へ】

- ・ポンペイ国際空港(定期便)～チューク空港



高知・ミクロネシア友好交流協会の紹介

事務局 山本 敦夫

発足

ミクロネシア連邦(FSM)は、1986年11月3日アメリカから自由連合盟約国として独立、人口110,000人、太平洋の赤道の北半球側に沿って点在する607の小さな島々と環礁からなる島嶼国です。国土の面積は、約700km²ですが、太平洋上の780万km²以上の海域にちらばっており、西の端(ヤップ州)から東の端(コスラエ州)まで、その距離2,550キロメートルにも及び言語、習慣、文化等が異なる4州が連邦を構成し、人々は友好的で美しい国です。高知市仁井田出身の森小弁が1892年に一屋商会の商社マンとしてチューク州に渡り定住し、学校建設など民生向上や南洋開発に貢献し、イザベラとの間に生まれた六男五女の一族は、現在約3,000人以上を数え、チューク州を中心に活躍しています。その小弁を曾祖父とするエマニュエル・マニー・モリ大統領が2008年11月と2010年11月に来高され、高知県知事と懇談、高知商工会議所訪問、牧野植物園視察等されました。また、小弁の孫、曾孫にあたる方々の度重なる高知訪問から、小弁の故郷である高知を大切に思うモリファミリーの心の絆を強く感じます。

2012年6月、日本国のODAプロジェクトによるポンペイ空港の滑走路延長及びターミナルビル増築が完成され、ポンペイ国際空港は近隣各国を結び、ますます発展されると思います。

当協会はミクロネシア連邦と日本、両国外交樹立25周年を2013年11月1日に迎え、この記念すべき年に、

両地域の絆を強化し、交流の懸け橋となるよう2013年6月3日に発足いたしました。

活動経過

2013年10月19日～23日：

高知・ミクロネシア友好記念ツアー(チャーター便)ポンペイ州・チューク州を訪問交流しました。

2013年11月1日：

ミクロネシア連邦・日本外交関係樹立25周年式典に参加しました。

これからの活動

当協会は、日本とミクロネシア連邦両国国民の交流を通じて相互理解を図るとともに、両国の平和と繁栄に貢献することを目的とし、友好交流団体、各種専門家、高知工科大学等留学生、研修生の受入に対応し協力を行います。



ミクロネシア連邦友好記念式典



高知・ミクロネシア友好記念ツアー
大統領府にて記念撮影



高知・ミクロネシア友好記念ツアー
モリファミリー主催記念パーティーにて記念品授与

10月21日(月)

【ブルーラグーンリゾートホテル(チューク州ウェノ)】

・チューク州政府関係者との懇談

【チューク州デュブロン】

・森小弁氏の記念石碑献花～旧支庁舎跡視察

【トラックストップホテル(チューク州ウェノ)】

・日系人協会&チューク女性の会主催夕食会

10月22日(火)

【チューク州ウェノ】

・森小弁氏の墓参り～記念碑「和」～チューク女性支援センター視察

【モリファミリー邸宅(チューク州ウェノ)】

・モリファミリー主催夕食会

10月23日(水)

【チューク州からポンペイ州へ】

・チューク空港(定期便)～ポンペイ国際空港

【ミクロネシア連邦から高知へ】

・ポンペイ国際空港待合室で別れのセレモニー

・ポンペイ国際空港(チャーター便)～高知龍馬空港



INAP2013 高知会議開催

高知県土木部港湾振興課 主査 藤岡 秀規

2013年11月21日から23日にかけて、INAP2013高知会議が高知県で6年ぶりに開催されました。

INAPとは、1998年に設立された港を通じた国際ネットワーク組織(友好提携港国際ネットワーク(略称INAPイナップ))です。現在日本・高知港、スリランカ・コロポ港、中国・青島港、フィリピン・スービック湾港及びセブ港、インドネシア・タンジュンペラ港、韓国・木浦新港の7港が会員となっており、毎年会議を通じて会員港間の交流を深めるとともにその活動を広げることに取り組んでいます。



高知県でお茶によるおもてなし

今年度のINAP会議は15回目にあたり、セブ港を除く6カ国6港からご参加いただき、「アジアの経済発展に寄与する港湾の成長戦略」をテーマ

に、21日に総会、シンポジウム、レセプションを開催しました。総会は、国指定重要文化財である高知城本丸御殿で開催し、日本の伝統文化であるお茶で海外の皆様をおもてなししたのち、会員港間で情報や意見の交換を行いました。午後のシンポジウムは、国際会議であるため基調講演及び港湾プレゼンテーション等を英語で行いましたが、一般県民や学生の皆様にも多数ご参加いただくことができました。夜のレセプションでは、よさこい踊りや山田太鼓、津野山神楽等の伝統芸能を披露し、高知の魅力を海外の皆様にも存分に堪能いただきました。

また今回の大きな特徴は、21日から23日にかけて高知ちばさんセンターにおいて、経済交流の促進と多くの県民の参加を目指して「第2回ものづくり総合技術展&INAP2013アジアフェア」を開催したことです。この中でINAP会員港各国企業と県内企業とのビジネスマッチングを行い、単に港湾関係者の交流だけでなく海外企業と県内企業の経済交流に向けての活発な意見交換を行うことができ、実のある成果を上げることができたと考えています。ブース出展による各国の港湾・観光・物産・食等の紹介も行い、ちばさんセンター全体で約14,400人の来場者がありました。

加えて、期間中はジェトロ高知と共催で韓国から木材バイヤーを招へいして、土佐材の輸出商談会を実施しました。また、インバウンドによる国際観光の振興の取組として、INAP会員港各国の旅行エージェンツ招へいによる観光モニターツアーを実施し、本県の観光地を売り込むことができました。

来年度のINAP会議は、フィリピン・スービック湾港で開催されます。県内企業を募った経済ミッ

ションを派遣する予定となっています。県内事業者の皆様には是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。

高知県では、今後もINAPのネットワークを土台に、INAP会員港各国との経済交流を進め、高知県の産業振興、地産外商につなげていきたいと考えておりますので、県民の皆様のご支援、ご協力を、引き続きお願いいたします。



「第2回ものづくり総合技術展&INAP2013アジアフェア」で披露された韓国伝統芸能「サムルノリ」



INAPシンポジウム



INAP会員港メンバーの記念撮影

JICA マスメディア海外派遣プログラム

高知ファイティングドッグス球団訪問団



独立行政法人国際協力機構(JICA)四国支部

高知県国際協力推進員 山内 桂

赤土の大地、満点の
星空、JICA広報紙でよく
見る子どもたちの笑顔、
初めてのアフリカ訪問に
胸を躍らせる訪問団、
また一方で水の心配、
食事の心配、語学の
心配、初海外がブル

キナファソというなんとも特異な体験をすることになった不安だらけの記者。世界の子どもの笑顔が見たいと駆けつけてくれたアーティスト。ブルキナファソと聞いたらいてもたってもいられず、完全ボランティアで同行してくれたアフリカ歴30年の通訳。今回のマスメディア派遣には高知県マスコミ関係者だけではなく、たくさんの方に同行いただき取材にご協力いただきました。

当プログラムの派遣が決定したのは2013年10月。高知ファイティングドッグス球団に練習生として入団が決定しているサンホ・ラシナ君のパスポート取得時期とマスコミ関係者のスケジュール調整がつかず、出発2ヵ月を切ったからの決定でした。予防接種もギリギリで、ビザを入手したのはなんと出発1日前。旅の無事を祈りながら、南国

土佐を後にして、首都ワガドゥグに到着しました。この時期、アメリカやヨーロッパで仕事を

してきたブルキナベ(ブルキナファソ人)がクリスマス休暇で戻って来るせいか、パリからの機内は荷物と人であふれており、手荷物収納のために1時間の遅延、到着後に荷物が出てくるまでにまた1時間。日も暮れ、満点の星空を予想していた私たち。空港を出てからの一言は「星が見えん。」「電気が結構あるねえ。」冒頭に書いた星空と大地、笑顔、井戸など、おそらく誰もが想像するアフリカのイメージ。世界最貧国と言われるブルキナファソではまさにそのイメージが広がっているものと皆が思っていました。空港前は多数の電気では照らされ、多くの車が行き交い、クラクションがあちこちで鳴っているため賑やかです。「高知空港のほうが電気ないし寂しい感じよねえ。」

今回の取材のメインは8月の入団テストで不合格となったラシナ君のその後と青年海外協力隊野球指導の杉山隊員の活動についてです。テレビ局がそちらに密着取材する一方で、新聞社のほうには村落開発・小学校教諭・幼児教育・稲作栽培・バレーボール・柔道など様々な分野で活躍する青年海外協力隊員を取材していただきました。日本から遠く離れた乾いた土地で慣れない言葉を使って自らの活動に試行錯誤しながら頑張る隊員さんたちを見て本当に勉強させてもらいました。そして、隊員さんたちを支えるJICAブルキナファソ事務所のスタッフの皆様のおかげで(そう思っておられる方はいらっしゃらないようですが笑)ご活躍される姿を拝見し、何でもそろう日本で自分はまだまだ精進不足だなあと実感した次第です。



船津隊員(幼児教育)による「大きなカブ」朗読授業の様子



光の切り絵アーティスト酒井敦美氏と切り絵で遊ぶ子供たち



在ブルキナファソ日本国大使公邸にて

INFORMATION BOARD

高知県国際交流員(韓国) 退任あいさつ



きむ へよん
金 恵栄

あっというまに5年が経ちました。その間、様々な仕事や経験をさせていただき、また、色々な人にも出会えました。この5年を振り返り、「マイベスト3 in 高知」をリストアップしてみました。

第3位、夜空。高知は空が広い。え、空気も澄んでいて夜空の星や月がとてもきれいに

見えます。満月の度に月の明るさに驚かされます。今住んでいる家の近くに鏡川があり、夜出かけてよく星や月を見るのですが、偶然、赤く燃えながら勢よく落ちていった「火球」を目撃した時は本当に感激しました。流れ星も一回だけ目撃し、その時に作った句を一つご紹介したいと思います。

「流れ星 願う間もなく 消えました」

第2位、旬の野菜や果物。高知ならではの珍しい野菜や果物が見られるのが好きで日曜市によく行っています。手作りの味噌やこんにゃく、朝つきたての柔らかいお餅、採れたての新鮮野菜が食べられるとは本当に贅沢ですね。最近「かんぱ餅」という餅を日曜市で発見してはまっています。さつま芋が入って

ほんのり甘いですが、色は灰色で不思議な触感です。とてもおいしいので、皆さんも是非、試してみてください。また、お店の方とお話ししながら、野菜の調理方法などを教えてもらうのも楽しみの一つです。

第1位、暖かい人々。韓国人であるという理由だけで無条件の愛を注いで下さった方々に心から感謝しています。私は、なぜか同年代より、年配の方の知り合いが多いのですが、娘のように可愛がっていただき、時には手作りのお菓子や料理、家庭菜園の野菜、米までいただき、一人暮らしの者にとっては非常にありがたく嬉しかった覚えが何度もあります。

ベスト3に入りきらなかった好きな高知がまだまだたくさんあります。5年間を振り返ってみたら、短かったようで、実は色々あって長かったようにも思えます。高知での楽しかった思い出を糧にこれからも頑張っていきたいと思えます。



須崎でのお茶会

GENKI青年会 土佐弁ミュージカル2014「ホグワーツ土佐流魔法魔術学校」

2014年度、土佐弁ミュージカルは20周年を迎えます。今年の題名は「ホグワーツ土佐流魔法魔術学校」。ハリー・ポッターとジョン万次郎の話を中心に高知の魅力や土佐弁の素晴らしさを再認識する機会にもなっています。外国人の役者が身近な土佐弁で演技やダンスを披露することにより、草の根の国際交流を深めます。芸術文化によって、

地域の方々と交流を深め、相互理解を促進しています。今年は美人もイケメンもいっぱい出演しますので見に来てください!



土佐弁ミュージカル2013「TOSA WARS」の一場面

入場は無料ですが、公演後、募金活動を行い、海外留学を希望する県内の中高大学生への助成金として活用いたしますので、ご協力をお願いします。

公演日時・会場

3月29日(土)	本山町	プラチナセンター	14:00~
3月30日(日)	室戸市	保健福祉センターやすらぎ	13:00~
	安芸市	安芸市民会館	18:00~
4月5日(土)	香南市	弁天座	13:00~
	四万十市	四万十市立文化センター	18:30~
4月6日(日)	土佐市	土佐市立USAくろしおセンター	12:00~
	高知市	県民文化ホール	18:30~

※開演時間は変更される場合があります。

お問い合わせ: GENKI青年会 土佐弁ミュージカル実行委員会
代表: マックス(高知県国際交流課内)
TEL: 088-823-9605
Email: genkiseinenkai@gmail.com

